

社会教育複合施設基本構想の概要について

大熊町は、町に関心のある人々が集い、交わり、学び、活動する場の創出を目的として、図書館、博物館、公民館等の機能を融合した社会教育複合施設を整備する。

施設整備の考え方

対象者

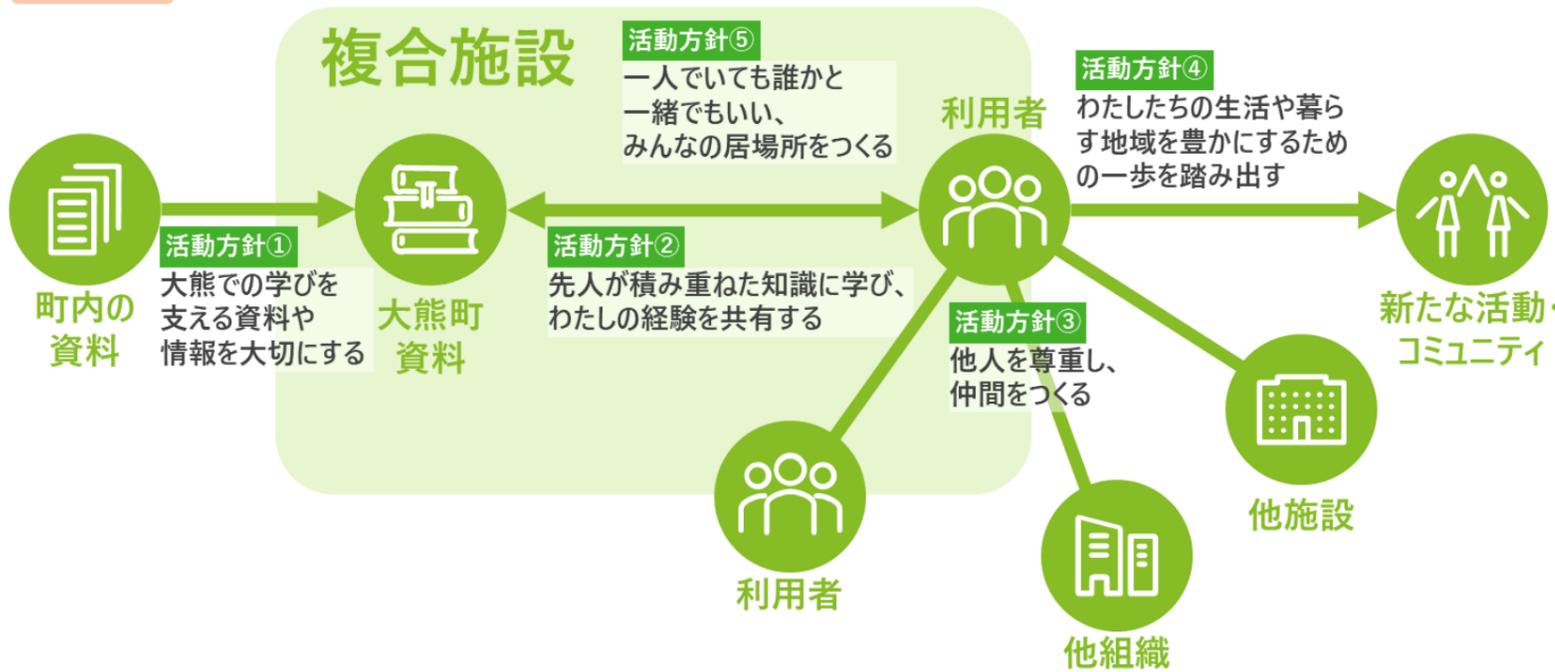
大熊町に関わる全ての人
居住地や住民票の有無にかかわらず、「大熊」という共通の関心ごとを持つすべての人を対象とする。

コンセプト

大熊で学ぶ 大熊の記憶をつなぐ

- ▶ 大熊を知り、共有し、それぞれの暮らしやまちづくりに生かすことができる場となる
- ▶ 大熊の記憶を集め、過去の記憶とともに、現在、未来の町民につなげていく

活動方針



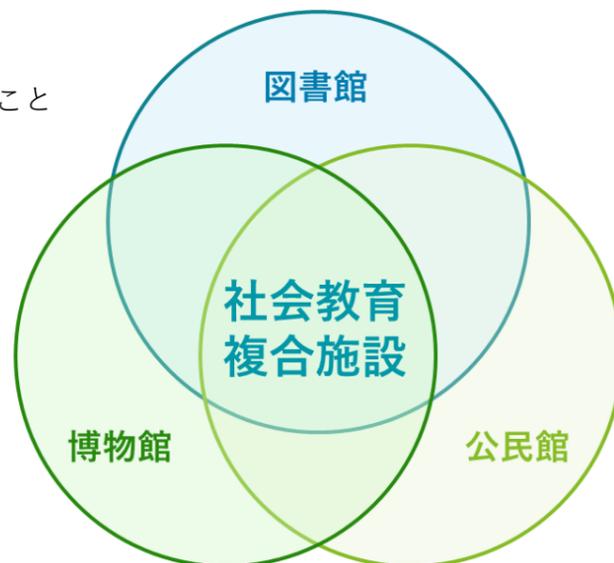
融合の意図

- ▶ 大熊や地域に関わる多様な資料があること
- ▶ それらを社会に発信し利用者結びつける専門職員がいること
- ▶ 大熊に関わる多様な人が集まること

機能の融合は利用者の学びの質、利便性を高める上でも効果的

主な施設機能

「リアル」と「デジタル」を融合した社会教育環境の構築
館全体で常設展示を表現
「読書のまち おおくま」の継承
多目的スペースでの交流と表現活動
大熊町資料を守る収蔵スペース



上位計画と施設整備の関係性

第二次復興計画

大熊町内で取り組むプロジェクト

- (1) 安心・安全の環境づくり
- (2) 日常生活を送るための環境づくり
- (3) 新たなコミュニティ形成
- (4) 関係人口・交流人口を増やすための取り組み

第二期まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略

- ✓ 令和9年の人口目標：大野駅周辺で2,600人

特定復興再生拠点区域復興再生計画

- ✓ 生活・社会インフラの復旧・復興及び住環境の整備
- ✓ 企業・研究機関等の誘致及び地元企業の再開
- ✓ 町民のコミュニティ創生及び町外流入者と交流促進

教育大綱

- ✓ 大熊町のもつ歴史や文化への理解を深め、地域資源を活用し、町民の豊かな人生形成を支える学びの環境を整備

- ① 震災を含めた町の歩みからの学び
- ② 公民館や図書館整備による居場所づくり、コミュニティ形成を通じ、関係人口・交流人口ひいては常住人口の増加に寄与

- ③ 生活に必要な文化施設の整備
- ④ ビジネスニーズにも対応
- ⑤ 上記②

- ⑥ 図書館及び博物館による学び、さらに公民館による実践の環境の整備

施設計画

敷地位置



施設規模

施設名称	延床面積 (㎡)
大熊町図書館(民俗伝承館含)	2,225
大熊町公民館	969
大熊町文化センター	3,354
大熊町農村環境改善センター	1,121
合計	7,669

施設複合化による利用者諸室の有効活用及び管理系諸室の効率化を加味し、合計面積よりも縮小する方向で検討

全体規模は **5,000㎡程度** とする

管理運営

大熊町民が主体となる施設運営体制
利用者の利便性に配慮した施設管理と運営
複合施設の強みを生かした運営と管理
最新の動向の確認と持続可能性の検証
大野駅西地区施設との連携
町内他施設及び町外施設との連携
町民、来訪者及び事業者との連携

本施設は、まちづくり、ひとづくりの根幹を支える社会教育の拠点となるため、大熊町ならではの地域性を重視し、伸ばしていく管理運営体制を検討する。

スケジュール

段階	時期
計画・設計	令和5年度～令和7年度
工事	令和7年度～令和9年度
施設完成・開館	令和9年度